

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570500458		
法人名	医療法人 こうえい会		
事業所名	グループホーム明香苑		
所在地	山口県周南市代々木通り2-27		
自己評価作成日	平成24年5月31日	評価結果市町受理日	平成24年11月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年6月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆さんがその人らしく暮らしていただけるように、一人ひとりの出来る事、得意な事を把握する事に努め、編み物や折り紙等、趣味を活かされるよう、活躍できる場面づくりに取り組んでいます。また、意欲的に取り組まれる事を見つけ、入居者が張り合いや喜びを持って過ごされる様に支援しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の得意な折り紙や編み物を活かして作品を作られたり、カラオケを楽しまれたり、新聞紙でのゴミ袋作りなどの他、家族や地域の人の協力を得て箸掘りやぶどう狩りをされるなど、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援しておられます。法人の医療と連携して、利用者は定期的にリハビリを受けておられ、日々、生活動線をシミュレーションして、利用者が転倒しないよう家具など配置を工夫され、事故防止に取り組まれています。食事は法人の管理栄養士の助言を得て、栄養バランスの取れたものを提供しておられ、三食とも事業所で食事づくりをされています。昼食と夕食はシルバー人材センターの職員が調理され、利用者と職員は同じものを食べておられ、利用者の食事が楽しみなものになるように支援しておられます。職員の異動が少なく、利用者と職員の関係も和やかで、利用者一人ひとりがその人らしく暮らせるように支援に努めておられ、利用者は穏やかに過ごしておられます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方と楽しく過ごせる様、理念に基づき実践し取り組んでいる。	「ゆっくり いっしょに たのしく」という理念を掲示し、全職員で共有している。地域との関わりを持ちながら、理念に沿って一人ひとりが生き生きと暮らせるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	馴染みの美容院での散髪、災害時の避難場所の提供等、双方向の交流となる様取り組んでいる。	近くの公園の散歩や地域の祭りに出かける他、花火大会では屋上で地域の人と見物するなど地域との交流をしている。認知症サポーター養成講座を開催し、地域の人へ認知症の理解を深める働きかけをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で認知症サポーター養成講座を開催し好評を得た。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義を理解しており外部評価を受ける事で、日々のケアや業務等の改善の機会としている。	評価の意義を理解して全職員で自己評価に取り組んでいる。自己評価票に各自が記入したものをもとにミーティングで話し合い、管理者がまとめ、職員は共通理解している。前回の目標達成計画に沿って認知症サポーター養成講座を開いたり、地域の店に出かけていくなどの取り組みをしている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し市職員、民生委員、介護相談員、家族代表、管理者、職員で利用者の暮らしぶりや行事、外部評価、地域の状況等意見交換をし、サービスに活かしている。	2ヶ月に1回開催し、事業所の現状報告をし、地域の行事や店の情報を出席者から聞くなど話し合いをしている。運営推進会議の中で認知症サポーター養成講座を開催するなど、サービスの向上にいかしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所が近く提出書類の持参や介護相談員養成研修の受け入れ、運営推進会時の情報交換等協力関係を築いている。	運営推進会議の他、市の担当課に出向き相談をし、助言を受けたり、情報交換をするなど協力体制を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは身体拘束について正しく理解しており全体で取り組んでいる。	マニュアルを作成し、法人の研修で学び全職員が、身体拘束について正しく理解をしている。施設が3階のため、利用者の状態に合わせて施錠することもあるが、可能な限り施錠はしていない。スピーチロックについては職員間で話し合い気を付けている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、勉強会で学ぶ機会を持ち、スピーチロックを含めて見過ごされることがないように、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修、勉強会で学ぶ機会を持ち、必要性があれば活用する用意はある。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と理解、納得していただく為の時間を設けている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望が気軽に言えるよう日頃から家族へ声かけ、受け付け体制の掲示をしている。	毎月の利用料の支払時、面会時、電話、運営推進会議時などで家族から意見や要望を聞いている。利用者からは、毎月訪問する介護相談員が聞き取り、事業所に伝えており、それらを運営に反映させている。相談苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面接や毎日のミーティング時に聞く機会を設け反映させている。	毎日2回(9時と16時)のミーティングの中で職員の意見や提案を聞く機会を設ける他、個人面接で職員の意見を聞き、運営に反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面接考課を実施、スタッフ会議への参加、助言等意欲的に取り組み職場環境、条件の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修が段階的に計画されている。	月1回の法人内研修に職員は参加している。職員が研修で発表する機会もあり、認知症の理解を深めることにつながっている。外部研修を受ける機会も確保している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会主催の研修会には必ず参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時に当法人通所利用者の場合にはいつも交流があり、顔なじみの関係が出来ており本人の安心につながっている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にしっかりと時間をかけ家族の思いを聞きながら、一方通行とならない関係に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時に出来る限り、不安事、困っている事の把握に努め、状況によっては他の支援についての説明、状況提供を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で本人の得意分野を見つけ意欲がわく様な対応心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と常に話し合い一緒に支えている事を確認、できる事をして頂いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と常に話し合い馴染みの関係が途切れない支援に努めている。	馴染みの美容院でパーマや毛染めをしたり、カラオケ仲間や友達、親戚、自宅の近所の人などの訪問があり、関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が声を掛け合う、襟元を直す等何気ない仕草継続する様な関係となる様、常に情報を共有、又、テーブル、いすの配置で工夫している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も何家族も来苑や、電話での交流がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表現が困難な方もアイコンタクトや少しの言葉の中から、又は、家族と話の中から、希望、意向の把握に努めている。	入会時のアセスメントを活用する他、利用者との日々の会話、表情、動き、何気なく出るつぶやきにも職員は気を配り、生活記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。家族へ利用者の言葉や様子を伝え、家族から利用者の昔の事を聞きだして、利用者への理解を深めて支援をしている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や面会者の情報や、本人との話の中からの情報を得る事で、これまでの暮らしの把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の暮らしの流れに添って現状の把握に努め毎日の申し送り時に特に気にかかる事は皆で話し合いをしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に、又、状況が変化した時には直ちに関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している。	日々のミーティングの中でミニカンファレンスを行い、把握している利用者の意向、家族の意見、医師の意見を参考にして職員で話し合い介護計画を作成している。利用者の状況の変化に応じて現状に即した計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残しカンファレンスで情報の共有、確認をしながら活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何が出来るかどこまで出来るかを話し合い対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の個人商店や訪問販売等の利用があり豊かな暮らしへとつなげている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはかかりつけ医の確認を行い、本人、家族の希望を聞きながら適切な医療が受けられるような支援をしている。	希望するかかりつけ医や協力医への受診支援をし、法人の医師と連携をとり、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフには准看護師、隣接の経営母体の医院には入院設備があり日常の変化は相談報告し適切な受診看護へつなげている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の付き添いに同行し病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化に伴う指針や方針について話し合いを持ち、家族、本人の状況に応じて話し合いを繰り返しながら医療関係者と共に支援している。	「重度化した場合の対応に係る指針」があり、入居時に説明をして、家族と話し合いを行っている。重度化にともない、家族、主治医、職員とその都度話し合い、方針を共有して支援をしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	安全管理委員会でアクシデント、インシデントの検討、派出所に写真を持参、マニュアルの活用等で事故防止に努めている。又、定期的に救急救命講習をうけている。	インシデント報告書に記録して、ミーティングで状態把握、対応策を話し合っ一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。法人の医療と連携し、利用者が定期的にリハビリを受け、転倒予防につなげている。応急手当や初期対応の定期的訓練はしていない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルがあり定期的に防災訓練を実施している。近隣の大学寮生との協力体制も出来ている。	法人の訓練に合わせて、年2回夜間も含めて避難訓練を実施している。近隣の大学寮の学生に協力を得る体制を整えている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声かけやプライバシーを確保した対応をしている。	一人ひとりの生活歴や思いを把握して、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを心かけている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを大切にして支援している。何気ない言葉もスタッフ間で取り上げ次に活かせる様、気を付けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、したいことができるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院でパーマや毛染めを楽しまれている。又毎朝の洋服選びも本人の意向が活かされるよう配慮している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い季節感を感じたり、一緒に下ごしらえを楽しみながら献立を考えたりと、食事が楽しみである様に支援している。	三食とも事業所で食事づくりをしている。(昼食、夕食はシルバー人材センターの職員が調理)利用者と一緒に掘った筍や畑の野菜など旬の物や新鮮な食材利用し季節感を味わえるように工夫している。法人の管理栄養士の助言を得て栄養バランスのとれた食事を提供している。利用者と職員は同じ食卓を囲み、同じものを食べ、会話を弾ませ、食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の助言や量のチェック、好み、習慣を把握し、一人ひとりに応じた支援をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣化されており本人に応じたケアをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンをつかみ、必要であれば誘導している。失敗時もさり気ない介助で配慮している。部屋にポータブルトイレの設置も検討している。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない言葉かけや誘導でトイレでの排泄支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食習慣を調べ食事量、水分量のチェック、飲食物の工夫など個々に応じた取り組みをしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	「温泉だね。」と皆を誘い合う姿もあり楽しみの一つとなっている。一人が好きな方には間に入りトラブルとならない様声かけしている。	毎日午後ゆっくり入浴を楽しめるよう支援している。姉妹二人での入浴や、利用者同士が誘い合って二人で入浴するなど、一人ひとりの希望に合わせて支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて昼寝や室温調整等、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の細やかな説明と服用薬品名カードの活用で目的、副作用、用法、用量について理解し、与薬メモの活用で服薬ミスを防いでいる。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや編み物や折り紙などの作品で家族を含めた喜びとなっていたり、ゴミ袋作りで自分の役割を見つけたりと楽しみ、活躍できる場面等の支援をしている。	編み物や折り紙、貼り絵の作品づくり、テレビ視聴、カラオケなどの楽しみごとや、新聞紙でのゴミ箱作りや屋上の畑の水やり、洗濯物たたみなど活躍できる場面をつくり張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋上の畑や近くの公園は、重度の利用者も日常的に外出している。筍掘りやぶどう狩りは家族や地域の人の協力もある。	屋上の畑の水やり、近くの公園の散歩、近所の店での買い物(菓子、ジュース類)など戸外に出かけられるように支援してる。家族や地域の人の協力を得て、筍掘りやぶどう狩りなどに出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に添うよう家族と話し合い、お金を所持したり使えるよう支援している。散歩がてらジュースを買ったりお菓子を買ったりの希望に対して支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればその都度支援しながら会話の中から本人の思いをくみ取り季節の便りを一緒に作りきっかけとなる様にしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に合わせてリビングのテーブル椅子の配置をしている。	共有空間には花が生けてあり、壁面には季節の合わせた利用者の作品が飾っており、季節感があるように工夫している。台所と食堂はワンルームで、調理の音や匂いもして家庭的な雰囲気がある。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フリースペースやエレベーターホールに椅子を配置し思い思いに過ごせるよう工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら馴染みの物を持ちこんだり、写真や自分で作った作品を飾り付けて本人が心地よく過ごせる様工夫している。	本人や家族と相談し、タンスや椅子、生活用品など馴染みの物を持ち込み、写真や作品などを飾り、本人が落ち着いて過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の動線を把握し安全かつ自立した生活が送れるよう家具の配置にも工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム明香苑

作成日： 平成 24年 10月 31日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	14	職員を育てる取り組みで、働きながらのトレーニング	サービスの質の向上	研修参加での報告会を行う。購入図書を活用し、定期的に勉強会を開く。	12ヶ月
2	5	運営推進鍵の参加者の顔ぶれが同じ。参加者が少ない。	家族の毎回の参加。メンバーの拡大。	家族への参加依頼を継続する。地域住民の複数参加の検討。	12ヶ月
3	35	応急手当の訓練が出来ていない。	実践力を身に付ける。	年間計画をたて、マニュアルの見直しを進めていながら訓練を実施する。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。